



一杯のコーヒーも「一期一会」

移動カフェ・カミーノ

「ここなら商店街」の朝。復興や生活再建のために働く人びとが集まり、それぞれの現場へと散っていきます。

「ここにコーヒー屋さんがあるのはうれしいね。現場へ行く前に一杯飲むと、今日もやるぞって気になるんだ」。こう語るのは、樹木伐採の仕事している70歳代の男性。移動カフェ・カミーノの常連の一人です。

カミーノが商店街に出店する

のは、毎週月・木・金曜日の午前9時半から午後3時ごろまで（土曜日にも不定期で出店）。オレンジとクリーム色の2トーンカラーの軽バン車両を店舗とし、本格コーヒーやエスプレッソ、紅茶などを販売します。

住民や復興関連の作業員たちが足を止め、ほんのひとときコーヒーを味わう姿がよく見られます。

「仕事や生活再建のために町にいる人たちに、少しでも心地よい時間を過ごしてもらえればと思って」

店主の高野幸子^{ゆきこ}さん（44歳）は、こう語ります。2015年9月の避難指示解除より5か月早い4月、井出地区の自宅に戻り、7月には移動カフェを始めました。

帰町前、いわき市で避難生活を送りながらコーヒーのプロ、バリスタになるための勉強を重ね、日本バリスタ協会の認定を取得。知り合いの協力も得て中古の移動販売車を入手し、カフェ用に改造して開業にこぎ着けました。

「おいしいものを飲んだり食べたりすると、その瞬間は幸せな気持ちになるでしょう。そんなちょっとした幸せを生み出したい。今の自分にできることは、それくらいしかないから」

将来は、「町の交流サロンや老人ホーム、デイサービスにもお邪魔できたら」と思い描いています。

カミーノはスペイン語で「道」の意味。高野さんは旅行が趣味で、特にスペインがお気に入りとのこと。「一人旅の途中、気軽に立ち寄れるカフェがあるととてもほっとするんです」。櫛葉にもそんな場所が一所でも

多くあってほしい…その願いを移動カフェとして実現させました。

私たちが歩む人生の道には、たくさんのお会いがあります。名も知らぬ人びととカフェの店先で交わす短い会話、「おいしい」や「ありがとう」の一言、そして笑顔。高野さんは、そうした「一期一会を大事にしたい」と言います。

小さな移動カフェも、私たちのつながりと元気を育む貴重な場のひとつになっているのです。



「ここなら商店街」に移動型のカフェを出店し、本格コーヒーやエスプレッソなどを販売する高野さん

